原子力行政連絡調整会議専門委員の意見

平成１６年３月１２日の福島第一原子力発電所立入調査に同行した福島県原子力行政連絡調整会議専門委員の意見は以下のとおり。

＜シュラウドの応力腐食割れ問題には、
地域の方々の安心を重視した取り組みを＞

○　シュラウドの応力腐食割れ問題は、これまで応力腐食割れが起こりにくいと説明してきた材料である低炭素ステンレス鋼を用いた炉心シュラウドに、専門家が考えたよりも早くひび割れが生じたこと、さらにそれが当事者自らによってオープンにされなかったという従来の経緯を考慮しないといけない。ある意味では、最初にボタンを掛け違えてしまったと言っても過言でない。従って技術的に見て安全上問題ないことは十分理解できるが、東京電力にはこの経緯をしっかりふまえ、地域の方々に安心感をもって頂けるようにして頂きたい。シュラウドにいつからひびが発生していたのか分からないという現状を考えると、地域の方々にとっては、シュラウドや再循環系配管は技術的には安全と思われるものの、感覚的には、天候で言えば未だ少し曇っており、決して快晴とは思われない状況にあるのではなかろうか。現場重視、下請けなど関連企業を含めた十分なコミニュケーション、注意深い監視、情報公開と説明、地道な関連研究等に一層努力して頂き、地域の方々がより安心し、”快晴”と思われるような状況を作りだして頂きたいと願っている。

なお特に、今回の補修後のシュラウドの健全性についてもわかりやすく説明するなど、県民の皆さんが一層安心して頂けるよう取り組んでいただきたい。

＜念には念を入れて慎重な対応を＞

○　原子力発電では、原子力以外のプラントとは異なり、大きな問題が起こってからその対応を考えるというわけにはいかない。即ち、原子力以外の分野のようにある程度は失敗や事故を覚悟し、その経験を基に技術を発展させていくと言うことがことが社会的に殆ど許されない。原子力発電に対しては、失敗や事故に対する社会の許容性は極めて低いのである。これは、航空機、自動車や化学プラント等の場合と比較すれば明らかであろう。従って今回の件に関しても、技術的には十分安全が確保されているとしても、シュラウドや再循環系配管について応力腐食割れが起こらないような処理をしているということに決して安住せず、念には念を入れて慎重に点検し続けていただきたい。

＜シュラウド補修工事後の監視とフォローアップを万全に＞

○　シュラウドについては、ひびの補修を行い、その跡の応力改善措置も取っているので、安全性は十分確保されていると思うが、今後、補修跡の監視およびフォローアップ体制を万全にして、そのつど結果を立地地域の皆さんに報告してほしい。

＜地域を重視し、分かりやすい説明を＞

○　原子力発電所が地域の一構成員だということを常に念頭において、些細な問題も共有化して解決を目指すという姿勢が重要であり、地域とのコミュニケーションを重視し、一般にも分かりやすい説明に配慮していただきたい。

＜技術者倫理の確立を＞

○　今回の不正問題は、点検で発見したシュラウド等のひび割れを国等に報告しなかったことに起因しているわけであり、東京電力においては、発電所の安全管理とともに、社内の技術者倫理の確立にも身を入れて進めていただきたい。